

PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

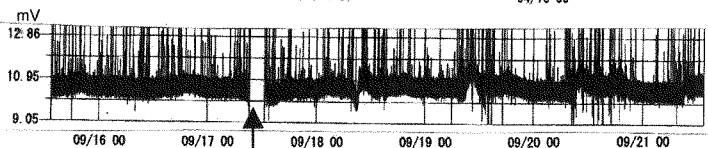
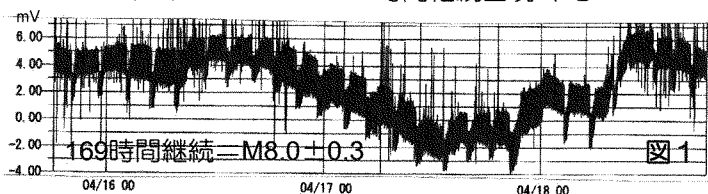
続報 No.314

2021.09/28 (火曜) 15:00 発表

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

4/17のK10-PBFに対する直前特異の可能性「9/17 K10特異」出現を観測！ 10月18日～21日 発生を示す

この時期 K10 には弱い特異変動が現われ基線が太くなっていますが、その中にPBF変動が出現しました。
K10 4/14～21 PBF 169時間継続出現 中心 4/17.5



K10 9/17.5 短時間特異 Tmap:Tpa=6:1経験則 図2
4/17.5極大PBFに対する直特の場合=10/18±3発生を示す
(Tmap=極大～発生 Tpa=直前特異～発生)

図3 K1 特異変動 極大8/13.0認識 9/15 00h～9/28 10h

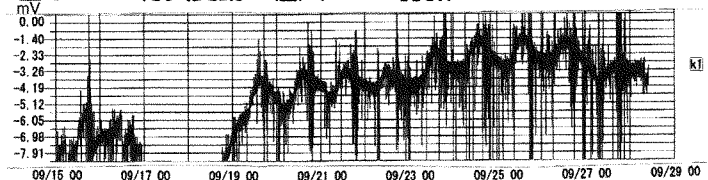
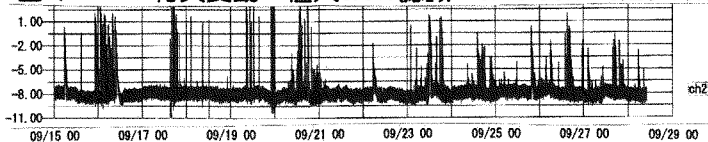


図4 CH29 特異変動 極大8/8.0認識 9/15 00h～9/28 10h



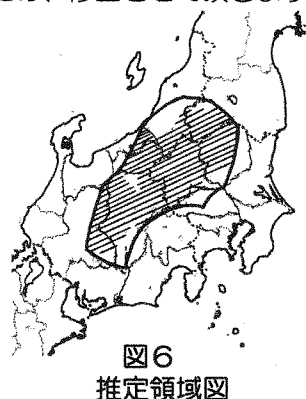
前号まではNo.1778の発生時期として10/10±3の可能性が考えられました。高知観測点のK10に9/17昼頃に短時間の特異変動が出現致しました(図2)。K10は本年4/17.5中心にPBF変動が169時間出現し、M8.0±0.3規模を示しました(図1)。この4/17.5極大のK10-PBFに対する直前特異として9/17.5の短時間特異が出現した可能性と認識。K10の短時間の特異は直前特異変動以外には考えにくい変動です。Tmap:Tpa=6:1 経験式より、10/18±3発生の可能性を示します。但し本日CH29に変動があるため、10/17以前は考えにくいため10/18～21の可能性となります。10月18日～21日発生の可能性となる場合には(各推定発生日時刻の場合の終息時期)

	CH29(8/8極大)	K1(8/13極大)
10/18発生の場合	9/30±0.5終息	10/1±0.5終息
10/19発生の場合	10/1±0.5終息	10/2±0.5終息
10/20発生の場合	10/2±0.5終息	10/3±0.5終息
10/21発生の場合	10/3±0.5終息	10/4±0.5終息

上のおりの時期に変動終息が観測される可能性が計算されます。図3のとおり、高知観測点K1は9/24午後には一度正常基線電圧値に戻りましたが、現在は低い値です。八ヶ岳のCH29は基線から上向きの特異変動がまだ断続的に弱く出ています。

両観測装置の前兆変動の初現時期の確定が難しい状態で、発生時期推定は極大と終息を確認することが重要でしたが、今回高知観測点のK10に直前特異認識変動が観測されたことで、確定的な時間変化変動が確認できました。両観測装置の変動終息を確認し、発生日を確定したいと考えます。K10の特異出現により08日ほど修正されましたこと、ご報告させて頂きました。

推定領域については、八ヶ岳南麓天文台より北側領域の可能性が示唆されたことから、長野南部を切っていました。今回から全ての推定領域を示します。また浅間山・草津白根山近傍の可能性が考えやすかったため、この領域を楕円斜線で示していましたが、推定領域内には下図5のとおり、14もの火山が存在します。火山性前兆変動が浅間山・草津白根山とは断定困難なため、14火山から各半径約40km円内を斜線で示した図が下図6です。図6の斜線域付近が推定領域の可能性として否定できないため、修正させて頂きます。



◆推定領域：図6太線領域内
斜線域=火山近傍領域の可能性考えやすい

◆推定規模：M8.0±0.3
(群発地震活動を含む可能性も有)

◆推定時期：K1,CH29特異終息確認後計算予定
但し10月18日～21日の可能性有

◇推定地震種：震源浅い陸域地殻地震
◇推定発生日時刻：AM 9:00±2 又は PM 6:00±2

推定発生日時刻は7月のBTよりも複数出現したBTを重視

C) Copyright 2021 YSBO 八ヶ岳南麓天文台